

● R社は、土木、大工、とび、内装など多職種を擁する建設業であり、“昔気質”の職人が大半を占める小規模な会社である。

● しかし、社長は「今後は大工のような職人も、サラリーマン化していけよう。そうしていかなければ事業も成り立たなくなってくる」と経営者としての信念を語る。**職人の採用にあたって、社員の人事運用でも、組織人としての責任感やモチベーションを重視**している。

● **入社2年目の30歳(採用当時29歳)社員を「課長」に昇格したのも、こうした信念によるものだ。**「向上心を持っている」点に社長は注目した。そこを大切に**して責任感を持たせたかった。**

● この30歳の社員は同社入社前の8年間、個人事業主として日給制で働いていた。「大工とはそういうものだ」と思っていた。しかし、結婚し、子供ができてから考え方が変わった。社会保険に加入する必要を痛感し、ハローワークで正社員としての就職口を探

し、同社への入社に至った。

● 「最初のうちは自分は何をやればいいのかと思うこともあったが、**今では仕事を任せてもらえているので、会社や社長、先輩・同僚社員に活かされている実感がある**」と同社員は話す。

● 「出世して嬉しいという実感はなかったが、妻に『おめでとう』と言われたときは嬉しかった。給料が上がったことも嬉しい」と昇格時の心境を語る。

● 「**課長になり、責任を感じることも、考えることも多いが、やりがいを感じている**」と早くも組織人としての自覚をうかがわせる。

● 同社員は、これからもずっとここで働きたいとのことである。社長の見込みと人事運用が奏功したものとと言えるだろう。